

なかよし・けんこう・どいよく

令和7年7月18日

天見小学校

天見小校長室だより 夏休み号

人の温かみを感じられる学校 みんなで笑顔と元気を作り出せる学校



今年は梅雨が早くに明け、6月からすでに夏休みのような暑さが続いています。プールに入るのにも、例年だったら「水温が低い。」「気温が低い。」ということで入られない日も多いのですが、今年は「水温が高すぎる。」「WBGTが31（危険限界領域）を超えそうだ。」などの理由で、プール調整する日が多かったです。昼からのプールをすべて午前中に変えてプールの時間を確保したりもしました。

そんな暑さの中でも、WBGTが31に達していない時間帯には子どもたちは外で遊ぶ子もいて元気に過ごしていました。プールでは全く息継ぎができなかった子どもたちができるようになったり、泳げる距離が伸びたりと、とても頑張っていました。うれしい限りです。1学期も無事みんな元気に過ごすことができました。どうぞ夏休みも事故なく元気に過ごしてほしいと思います。

8月5日 星空観察会 & 防災教室

10月26日 科学実験室 & 天見にぎわいフェスタ

昨年度から始まった「**星空観察会**」。昨年度は大変な好評をいただき、ありがとうございました。今年も**8月5日**に「**ちはや星と自然のミュージアム**」よりゲストティーチャーをお呼びして、引き続き星空観察会を企画させていただくことになりました。昨年に同時開催した「科学教室」ですが、時間的に「2時間ぐらいのプログラムでやりたいなあ。」というご希望があったので、**10月26日(日)の「天見にぎわいフェスタ」の時に、「科学実験教室」を入れていただくことになりました。**今年度もたくさんの面白い実験を体験させてくださる予定です。講師の森本先生は、「もう何をしようか、考えている。」とおっしゃってくださっていました。「天見にぎわいフェスタ」もとても楽しいので、ぜひ**親子でこの二つの「天見Day」を楽しんで**いただけたらと思っています。

さて、今年度の「**星空観察会**」は**月の観察も一緒に**します。昨年度は星が見えやすいように、新月のころにやらせていただきました。今年はおよそ「半月」のころを狙って行うことになりました。**星**はもちろんのことですが、**月**の観察もとても面白いそうなので、ぜひこちらにも多数ご参加いただきますよう、お願いいたします。

またこの日のもう一つのイベントとして、「**防災教室**」を行わせていただきます。**地域の防災関係者や河内長野市の危機管理課とコラボして**やります。来る災害にどう向き合うのか、少しでも実体験として感じてほしい内容を考えました。本当に避難しなくてはいけないときに、どんなものが必要なのかを教えていただいたり、また急で用意できなかったものをどこでもあるもので、**生活用品を作ったり**もします。また、子どもたちは、過去三年にわたって、てくてくテーリングの時に防災食を食べさせていただいていますが、**防災食のα米**も数だけ用意させていただいていますので、ぜひ大人の方にも食べてもらいたいと思っています。実際避難所を開設するのに、大人の人には**室内用テントを広げてもらって、避難所を開設**していただき、子どもたちには**簡易ベッド**を作ってもらうなどの活動をしてもらうつもりです。できれ



ば地域の方も一緒に避難所体験をしていただけるととてもありがたいなあと思っていますが、ぜひ、お父さん、お母さんもその日はいろんな体験をして帰っていただきたいと思っています。どうぞ多数ご参加ください。よろしくお願いいたします。

夏の平和学習 「神風特攻隊」の話

朝の全校朝礼が毎週水曜日にあります。てくてくテーリングでの活動計画や、縦割り野菜の植え付け、手入れ、収穫などを頑張ったり、花いっぱい運動でお花を植えたりと毎週、天見小学校ならではの様々な企画が行われ、充実した朝礼が行われています。

そんな中、「校長先生のお話し」も入れてくださっています。子どもたちに、「**頑張るっていいことだよ。**」とか、「**万人にとってよくないことでも考え方を変わるとプラスな気持ちになるよ。**」とか、「**違いを認め合おう。**」とか、「**命の話**」とか・・・毎回、子どもたちに大切にしてほしいことをお話しています。校長からのメッセージは主立って、そこでしか話ることができないので、子どもたちに聞いてほしいと思う話をします。

終戦日間近の夏になると、どうしても戦争の話を聞いてほしいという思いがあり、必ず**平和教育**を入れさせていただいています。昨年度は、「**子どもが疎開したときの生活**」についての絵本を読みました。読んだ私が、「小学生くらいの子どもたちがこんな生活をしていたのか。」と、胸にズドンと伝わってきたからです。疎開は、「修学旅行などの何日間かおうちのひとと離れて楽しいという時間だった。」というのではなく、**ひもじい生活**が待っていたり、**弱肉強食のいじめ**が待っていたり、**家族と会えない寂しさ**が待っていたりと、それはすさまじい生活だったことが描かれていました。主人公が住んでいた家の近くが空襲になり、疎開している間に**家族全員と生き別れて**しまっ「家族に会いたい。」という気持ちは結局最後には報われなかったというお話です。

(「おかあちゃん おかあちゃん むかえにきて) 奥田継夫 作)

今年は「**行ってきます。**」「**行ってらっしゃい。**」の挨拶の意味と一緒に考えました。「**行ってきます。**」は「**行って無事に帰ってきます。**」「**行ってらっしゃい。**」は「**行って無事に帰ってきてくださいね。**」という意味があります。最近では、面倒くさくてこの言葉も言わずに出ていくことも増えていいるかもしれません。

戦時中に出兵するときにいうこの言葉は**非常に重たい誓いの意味**がありました。でも、その「行ってきます。」の言葉も言えず、行ったきりになることが分かっているの、「**行きます。**」と言って旅立っていった多くの若者がいたということです。**特攻隊員**で自分の命と引き換えに敵の船に飛行機ごとぶつかって死んでいった若者たちです。

鹿児島に行ったときにぜひ行っておきたい資料館がありました。多くの特攻隊員がその基地から飛び立ったという**知覧**という所です。知覧は幕末に活躍した薩摩武士の質実剛健とした武家屋敷が残るいい町でした。そんな街から少し離れたところに「**知覧特攻平和会館**」は建っています。そこは、「永遠のゼロ」(百田直樹作)がノンフィクションだったことがよくわかる場所でした。飛び立った方々の**遺影や遺書**、そしてその方たちの寝泊まりしていた**兵舎、飛んで行った同機種の飛行機**が置いてある資料館でした。特攻で亡くなった方は1039名おられたそうですが、そのうちの約半分の439名がそこから飛んで行かれたそうです。その資料館はとても静かにたたずんでいて、並んでいるたくさんの遺書や遺影がたくさん展示されていました。見学に、何時間もかかりました。とても胸が痛みました。そこには、439人の生活があり、思いがありました。なくなった兵隊の方々の**平均年齢は21歳。中には17歳の少年**もいらっしやったそうです。

「行ってきます。」「行ってらっしゃい。」簡単な言葉ですが、深い意味があります。家族とのコミュニケーションとしてこの言葉を大切にしてほしいし、この一言に込められている家族の思いも一緒に感じながら毎日を過ごしてほしいなと思いました。

家族とゆっくり過ごせる夏休み。ゆったりと子どもたちと接する中で、お互いが優しい気持ちになれるそんな夏休みにしていただき、また、9月に元気にお会いしましょう。

